

シラバス記入用紙

大学院名: 筑波大学大学院

■ 科目番号と項目番号

研究科名: 人間総合科学研究科

別紙「科目番号と項目番号」を参照し、下表の科目番号項目番号欄に記入してください。

担当者名: 石隈利紀

記入例 1-(1)、実1-(1)

科目名: 学校心理学

No.	授業スケジュール	主な内容	科目番号 項目番号	(認定委員会記入欄)
1	オリエンテーション、学校心理学とは	子どもが変わる・学校が変わる・社会が変わるなかで、学校生活の質を高める援助をどう行うか。学校心理学の定義と必要性について学ぶ。また学校心理士申請への過程について知る。	1-(1)	
2	世界の学校心理学と日本の学校心理学	アメリカ・イギリスの学校心理学、香港・台湾の学校心理学について知り、日本の学校心理学の歴史と現状について学ぶ。「スクールサイコロジスト」や「学校心理士」の現状と課題について知る。	1-(1)	
3	心理教育的援助サービスの基礎概念	援助サービスの対象(誰を援助するか)、援助サービスの焦点(何を援助するか)、援助サービスの場(どこで援助するか)について学ぶ。また4種類のヘルパーについて学ぶ。とくに教師の役割、スクールカウンセラーの役割について学ぶ。	1-(2)	
4	三段階の心理教育的援助サービス	三段階の心理教育的援助サービスのモデルについて学び、自らの援助について計画し、検討する。とくに一次的援助サービスが二次的・三次的援助サービスの基盤になり、二次的・三次的援助サービスで得た成果から一次的援助サービスを充実させるという循環を理解する。	1-(2)	
5	心理教育的アセスメント(1)	子ども(学習面、心理・社会面、進路面、健康面)、環境(学級、学校、家庭など)、子どもと環境の相互作用に焦点をあてて、アセスメントの方法(観察法、記録書類の読み方、関係者の面接など)について学ぶ。自分の価値観のアセスメントについても学ぶ。	1-(3)	
6	心理教育的アセスメント(2)	心理検査(WISC-III、K-ABCなど)による知的能力・学力の特徴のアセスメントについて学ぶ。心理検査実施および結果の解釈の留意点について、アラン・カウフマンの「賢いアセスメント」の視点から学ぶ。	1-(3)	
7	カウンセリング(直接的援助サービス)	授業、面接、個別指導など、直接的な援助サービスについて学ぶ。とくに教師のできる援助、スクールカウンセラーのできる援助に焦点をあてる。また廣さんとハマちゃんから、「カウンセリングにおける三種類の人間関係」モデルに基づく危機介入と日常生活における援助について学ぶ。	1-(3)	
8	コンサルテーション(間接的援助)とコーディネーション	援助者同士のコンサルテーションおよび援助サービスのコーディネーションについて学ぶ。とくに「コンサルテーション」および「相互コンサルテーション」の意義(「カウンセリング」との異同等)とプロセスについて学ぶ。またコーディネーターに求められるスキルについて学ぶ。	1-(4)	
9	チーム援助および援助サービスのシステム	援助チームの進め方、学校・地域における援助サービスのシステムについて学ぶ。とくに教師・スクールカウンセラーと保護者とのパートナーシップについて、チーム援助の演習を通して学ぶ。	1-(4)	
10	学校心理学の課題と心理教育的援助サービスにおける倫理	学校心理学の現状と課題について学ぶ。さらに心理教育的援助サービスを行う上での倫理について学ぶ。とくに援助サービスの質の維持向上と情報の共有(守秘義務と報告義務)に焦点をあてる。	1-(5)	

※ なお、各授業時間は75分が2コマで150分。10回で2単位。

筑波大学大学院人間総合科学研究科（東京地区）

平成 22 年度 3 学期

学校心理学

(School Psychology)

授業時間：3 学期 土曜日 6・7 限

単位数：2 単位

履修年次：1 年～2 年

担当教官：石隈利紀 (ishikuma@human.tsukuba.ac.jp)

研究室：小日向校舎 304 (03-3942-5188)

オフィスアワー：金曜日 19:00～20:00 (アポイントを取ってください)

授業概要：

一人ひとりの子どもを対象とした心理教育的援助サービス（アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション、コーディネーション）の理論と実践の体系である「学校心理学」について、講義、文献購読、実習から学習する。具体的には、現代の子どもがもつ学校生活での苦戦に対応した心理教育的援助サービスについて、実践例を通して検討する。また援助サービスのシステムやコーディネーターの役割について焦点をあてる。

* 「学校心理士」申請においては「学校心理学」に対応する。

評価方法：

3 点から評価する。

- ① 出席および振り返りレポートの提出（単位修得には 2/3 以上の出席が必要）
- ② 学期末レポート
- ③ 学期末試験（教科書および「A4 用紙 1 枚の“まとめ”」持ち込み可）

教科書：

石隈利紀 1999『学校心理学－教師・スクールカウンセラー・保護者のチームによる心理教育的援助サービス』 誠信書房

主な参考書：

- ◇石隈利紀・田村節子 2003『チーム援助入門－学校心理学・実践編』 図書文化
- ◇石隈利紀（監修）水野治久（編）2009 学校での効果的な援助～学校心理学の最前線
ナカニシヤ書店
- ◇福沢周介・石隈利紀・小野瀬雅人（責任編集）日本学校心理学会（編）
2005 学校心理学ハンドブック 教育出版
- ◇田上不二夫 1999 実践スクール・カウンセリング－学級担任ができる不登校児童・生徒への援助－ 金子書房
- ◇大河原美以 2004 怒りをコントロールできない子の理解と援助－教師と親のかかわり
金子書房
- ◇石隈利紀 2006 寅さんとハマちゃんに学ぶ助け方・助けられ方の心理学～
やわらかく生きるための 6 つのレッスン 誠信書房

授業計画：

1 オリエンテーション、学校心理学とは：

子どもが変わる・学校が変わる・社会が変わるなかで、学校生活の質を高める援助をどう行うか。学校心理学の定義と必要性について学ぶ。また学校心理士申請への過程について知る。

2 世界の学校心理学と日本の学校心理学：

アメリカ・イギリスの学校心理学、香港・台湾の学校心理学について知り、日本の学校心理学の歴史と現状について学ぶ。「スクールサイコロジスト」や「学校心理士」の現状と課題について知る。

3 心理教育的援助サービスの基礎概念：

援助サービスの対象（誰を援助するか）、援助サービスの焦点（何を援助するか）、援助サービスの場（どこで援助するか）について学ぶ。また4種類のヘルパーについて学ぶ。とくに教師の役割、スクールカウンセラーの役割について学ぶ。

4 三段階の心理教育的援助サービス：

三段階の心理教育的援助サービスのモデルについて学び、自らの援助について計画し、検討する。とくに一次的援助サービスが二次的・三次的援助サービスの基盤になり、二次的・三次的援助サービスで得た成果から一次的援助サービスを充実させるという循環を理解する。

5 心理教育的アセスメント（1）：

子ども（学習面、心理・社会面、進路面、健康面）、環境（学級、学校、家庭など）、子どもと環境の相互作用に焦点をあてて、アセスメントの方法（観察法、記録書類の読み方、関係者の面接など）について学ぶ。自分の価値観のアセスメントについても学ぶ。

6 心理教育的アセスメント（2）：

心理検査（WISC-III、K-ABCなど）による知的能力・学力の特徴のアセスメントについて学ぶ。心理検査実施および結果の解釈の留意点について、アラン・カウフマンの「賢いアセスメント」の視点から学ぶ。

7 カウンセリング（直接的援助サービス）：

授業、面接、個別指導など、直接的な援助サービスについて学ぶ。とくに教師のできる援助、スクールカウンセラーのできる援助に焦点をあてる。また寅さんとハマちゃんから、「カウンセリングにおける三種類の人間関係」モデルに基づく危機介入と日常生活における援助について学ぶ。

8 コンサルテーション（間接的援助）とコーディネーション：

援助者同士のコンサルテーションおよび援助サービスのコーディネーションについて学ぶ。とくに「コンサルテーション」および「相互コンサルテーション」の意義（「カウンセリング」との異同など）とプロセスについて学ぶ。またコーディネーターに求められるスキルについて学ぶ。

9 チーム援助および援助サービスのシステム：

援助チームの進め方、学校・地域における援助サービスのシステムについて学ぶ。とくに教師・スクールカウンセラーと保護者とのパートナーシップについて、チーム援助の演習を通して学ぶ。

10 学校心理学の課題と心理教育的援助サービスにおける倫理：

学校心理学の現状と課題について学ぶ。さらに心理教育的援助サービスを行う上での倫理について学ぶ。とくに援助サービスの質の維持向上と情報の共有（守秘義務と報告義務）に焦点をあてる。